

医師会 健康講座

予防接種を受けましょう

いばやし小児科（長堀） 小林 仁史

予防接種法がたびたび改正されて、多くの予防接種が受けられるようになってきました。

【予防接種の種類】

▽全額公費で受ける予防接種
（子どもの定期接種）

ヒブ・肺炎球菌・4種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ）小児まひ）・はしか風疹混合・BCG（結核）・日本脳炎・水ぼうそう（带状疱疹）あわよう）

▽一部公費負担で、高齢者のみを対象とした予防接種

インフルエンザ・肺炎球菌

▽全額自己負担で受ける予防接種
おたふく風邪・A型肝炎・B型肝炎・インフルエンザ・接種年齢を外れた定期接種のワクチンの一部・ロタウイルス（乳児のみを対象。激しい白色下痢と嘔吐で脱水症になりやすい）

▽海外渡航時に勧める予防接種
黄熱病・狂犬病・髄膜炎菌性髄膜炎・そのほか

※ヒトパピローマウイルスワクチン（子宮頸がん）は希望すれば

公費で接種できますが、副作用の問題があつて、今は積極的に勧められていません。

予防接種は、多くの病気の急性の症状を予防するだけではありません。気づかないうちに進行する難聴、不妊症（おたふく風邪）や長い経過の後に発症するがん（B型肝炎・ヒトパピローマウイルス）、带状疱疹後神経痛（水ぼうそう）、亜急性硬化性全脳炎（はしか）を予防します。また、お腹の赤ちゃんに心臓奇形や難聴、白内障、精神運動発達遅滞がみられる先天風疹症候群、けいれん、まひ、知能障がい（脳脊髄膜炎）ヒブ・肺炎球菌・日本脳炎・インフルエンザ脳症 も予防します。

予防接種は、体に病原体の一部を入れて軽く反応させて、その後病原体が入ってきたとき（感染したとき）に素早く対抗できる抗体を作ることを目的にしています。

軽い熱が出たり、赤くはれたりする軽微な副反応は普通に起こりま

すが、重大な副作用はめったに起こりません。しかし、ゼロではありません。重大な副作用をゼロに近づけるために不断の研究努力が続けられています。

【予防接種の効果】

予防接種には、副作用の危険はありますが、それとは比較にならない大きな効果が期待されます。

①病気を予防し、熱や痛み、激しい咳などの辛い症状が出ません。病気による死亡を無くし、後遺障がいも予防接種の副作用に比べると格段に少なく軽いものです。また、治療費や看護にかかる保護者の経済的・時間的負担を軽減し個人や自治体や国の医療費を節約できます。

②感染症は都合の悪いときや体調のすぐれないときにも突然かかります。予防接種は、元気なとき、都合のよいときを選んで受けることができます。

③感染症やその後遺症は、原則自己負担で治療を受けなければなりません。予防接種では、万

一副作用が出たときの治療には公的補償が受けられます。

④海外渡航時または子どもの将来の進路によっては、予防接種を受けた証明が必要なことがあります（医療・教育・介護・養護・保育・保健など）。

乳児期に受ける予防接種は、種類も回数も多く、1つずつ受けていられないことがあります。同時複数接種（2〜4種類のワクチンを同時に接種する）という方法もありますので、かかりつけの医師に相談してください。

予防接種は個人を守り、家族や周囲の人を含めた社会を守るものです。感染症の制圧には、個人防衛（手洗いやうがい、マスク、予防接種）、社会的防衛（公衆衛生上の施策、検疫などの水際作戦、予防接種とその副作用治療に対する公的支援、WHOの国際的な活動と衛生教育の充実が一体となって実行されることが大切です）。

近年では、エボラ出血熱、マーズコロナウイルス、エイズ、新型コロナウイルスなど恐ろしい感染症がありますが、早く制圧される

ことが切望されます。予防接種で防ぎましょう。